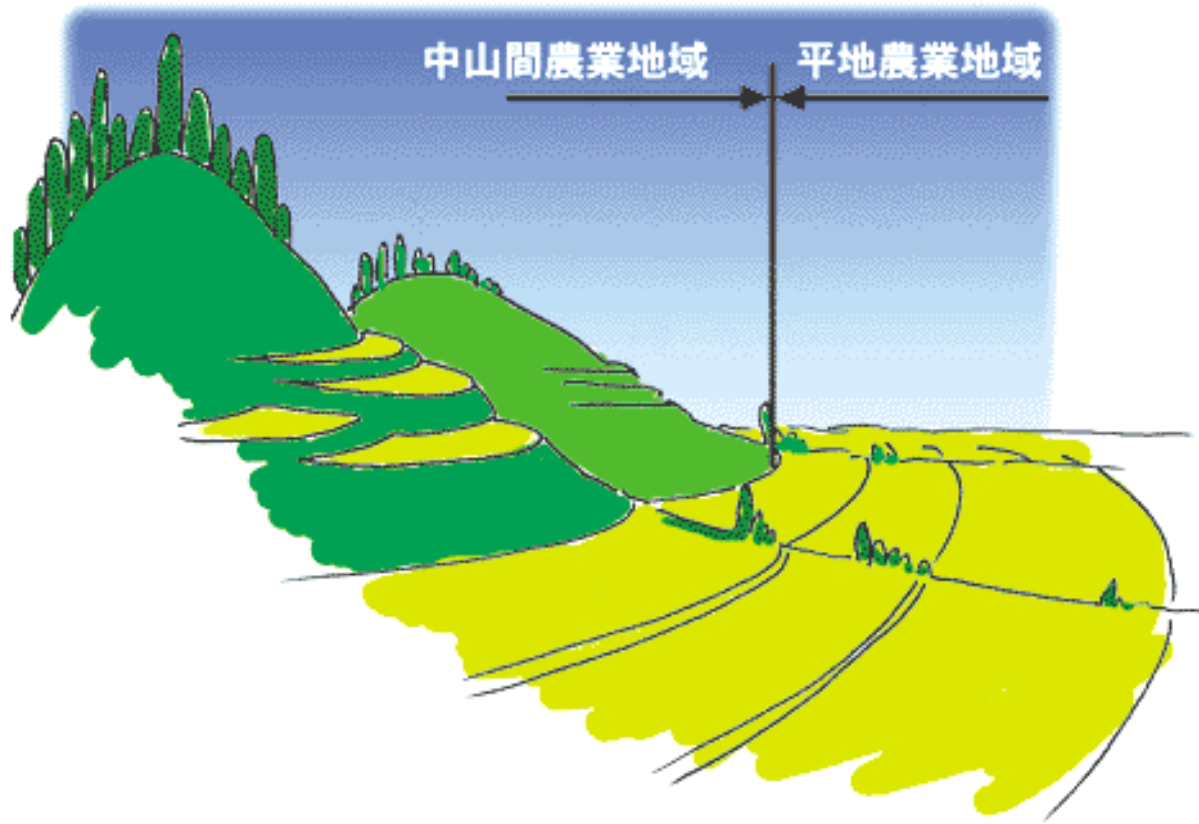


中山間地の農業の概況と その活性化方策

新潟大学名誉教授

三沢真一

中山間地とは？



**中山間地域とは、
平野の外縁部から山間地を指します。**

中山間地とは？

- **法律上の定義**：特定農山村法、山村振興法、過疎地域活性化特別措置法、半島振興法、離島振興法等により定義されています
- これらの法律は、**いずれも自然条件や地理的条件が不利な地域**に対して、地域振興や活性化を促進することを目的とした法律により定義されたものです。

特定農山村法

- ① 勾配 $1/20$ 以上の田面積が全田面積の50%以上、但し全田面積が全耕地面積の33%以上
- ② 勾配15 度以上の畑面積が全畑面積の50%以上、但し全畑面積が全耕地面積の33%以上
- ③ 林野率75%以上
- ④ 15 歳以上人口に対する農林業従事者数の割合が10%以上、又は総土地面積に対する農林地割合81%以上

中山間地とは？

- **農林統計上の定義**：都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域の4地域に分類される中で、中間農業地域及び山間農業地域に該当する地域を「中山間地域」と定義する

- ① 都市的地域：略
- ② 平地農業地域：耕地率20%以上、林野率が50%未満又は50%以上であるが平坦な耕地が中心
- ③ 中間農業地域：平地農業地域と山間農業地域との中間的な地域、林野率は主に50%～80%で、耕地は傾斜地が多い市町村
- ④ 山間農業地域：林野率が80%以上、耕地率が10%未満の市町村

大きい中山間地域の多面的機能



景観の保全
保健休養の場の提供

生態系の保全
地下水かん養
河川流域の安全

多面的機能の経済的評価

日本の国全体で年間6兆9千億円の価値があるといわれています。

働 き

評価額(億円／年)

	全国	中山間地域
洪水を減らす	28,789	11,496
地下水を潤す	12,887	6,023
土砂が川に流れ 込むのを防ぐ	2,851	1,745
斜面の崩れを防ぐ	1,428	839
生ゴミを分解する	64	26
酸素を作り出す	99	42
気候をやわらげる	105	20
安らぎを与える	22,565	10,128
合 計	68,788	30,319

参考資料:「農業・農村の公益的機能の経済的評価」農林水産省農業総合研究所
「国土保全奨励制度全国研究協議会報告」(平成11年3月) (平成10年6月)

(注)「代替法」という算出方法で経済的価値を評価したものです。



耕作放棄された棚田

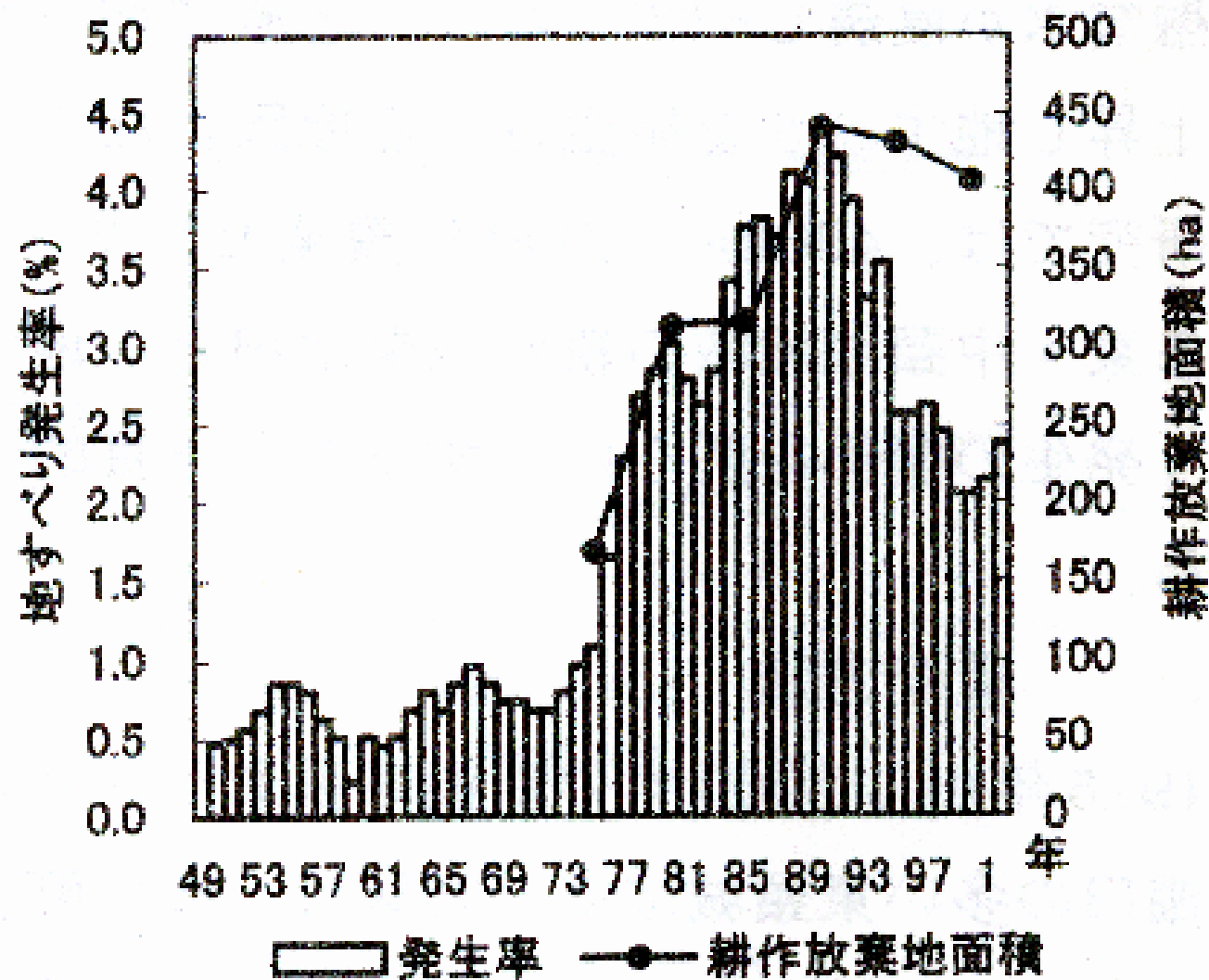


図-4 年別地すべり発生率と耕作放棄地面積

地滑りを防ぐ棚田

冬水の知恵
流出の抑制
不断の管理、手入れ

耕作放棄が招く地滑り

A photograph of a muddy, shallow pond or water field. The water is a murky brown color, reflecting the sky and the surrounding environment. In the background, there is a grassy bank with some patches of bare earth. A black cable or pipe runs along the edge of the water. The overall scene suggests a natural, possibly agricultural, water body.

水を貯えた水田は生態系の宝庫



蛙の卵



サンショウウオの卵

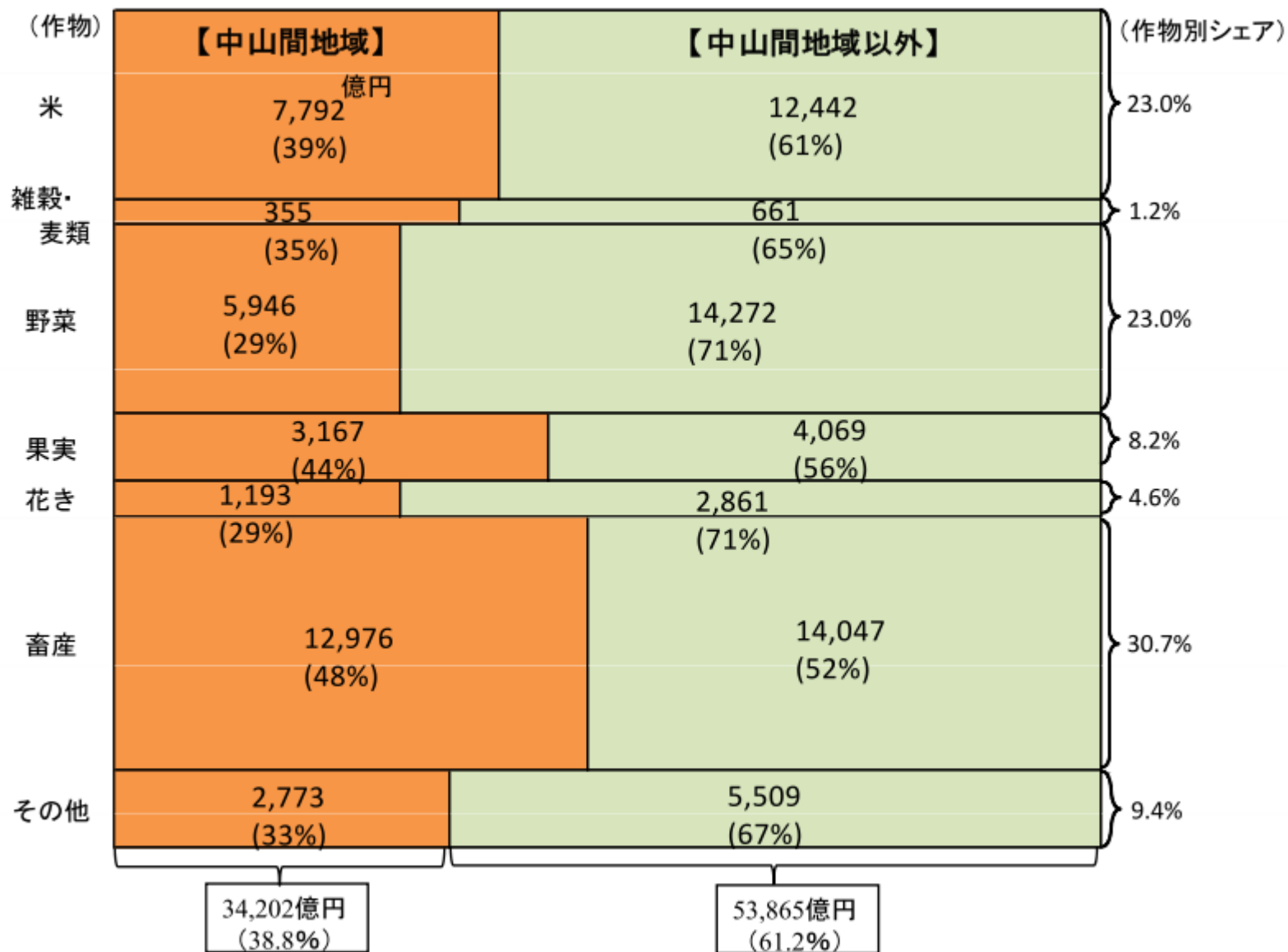
中山間地農業の状況

＜中山間地域の農業構造＞

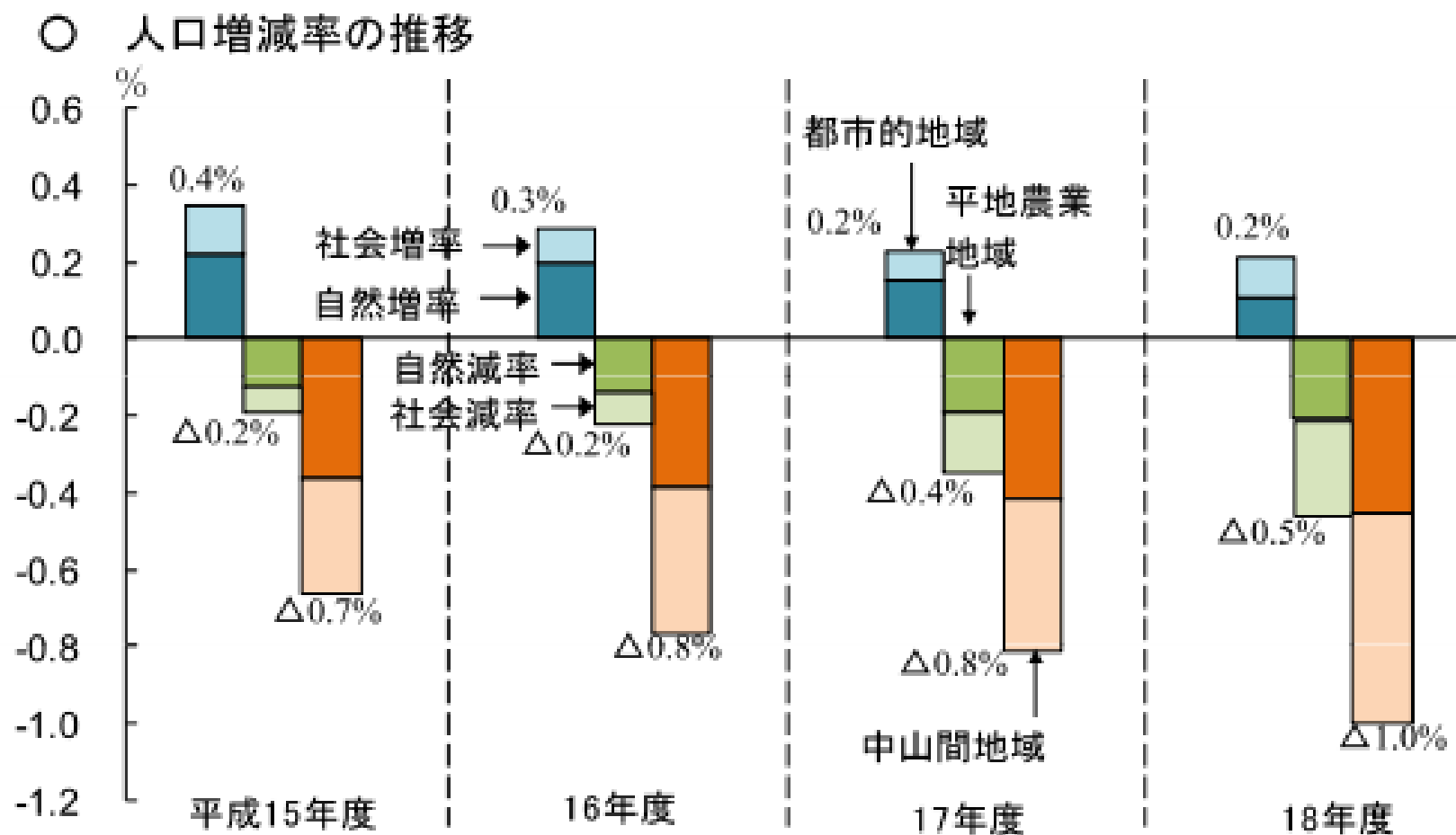
項 目	中山間地域	平場地域	備 考
1戸当たり経営耕地面積	0.95ha	1.78ha	2005センサス
耕作放棄率	9.7%	3.7%	〃 (総農家+土地持ち非農家の合計)
農業就業に占める65歳以上割合	69%	58%	〃
1戸当たり生産農業所得	857千円	1,356千円	H18生産農業所得統計

新潟県地域農政推進課(H22年度)

農業産出額 88,067億円

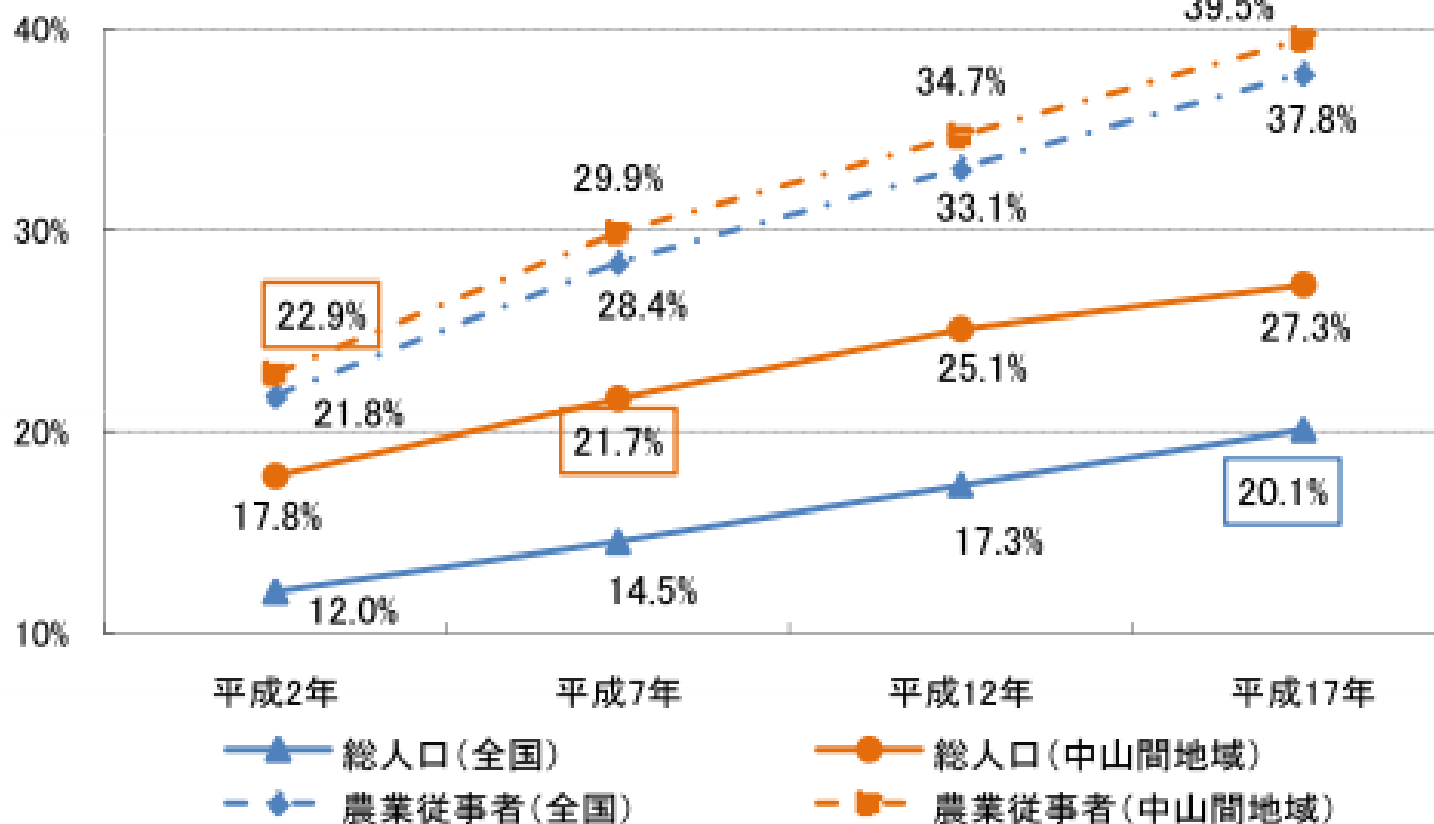


中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）



中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）

○ 高齢化率の推移

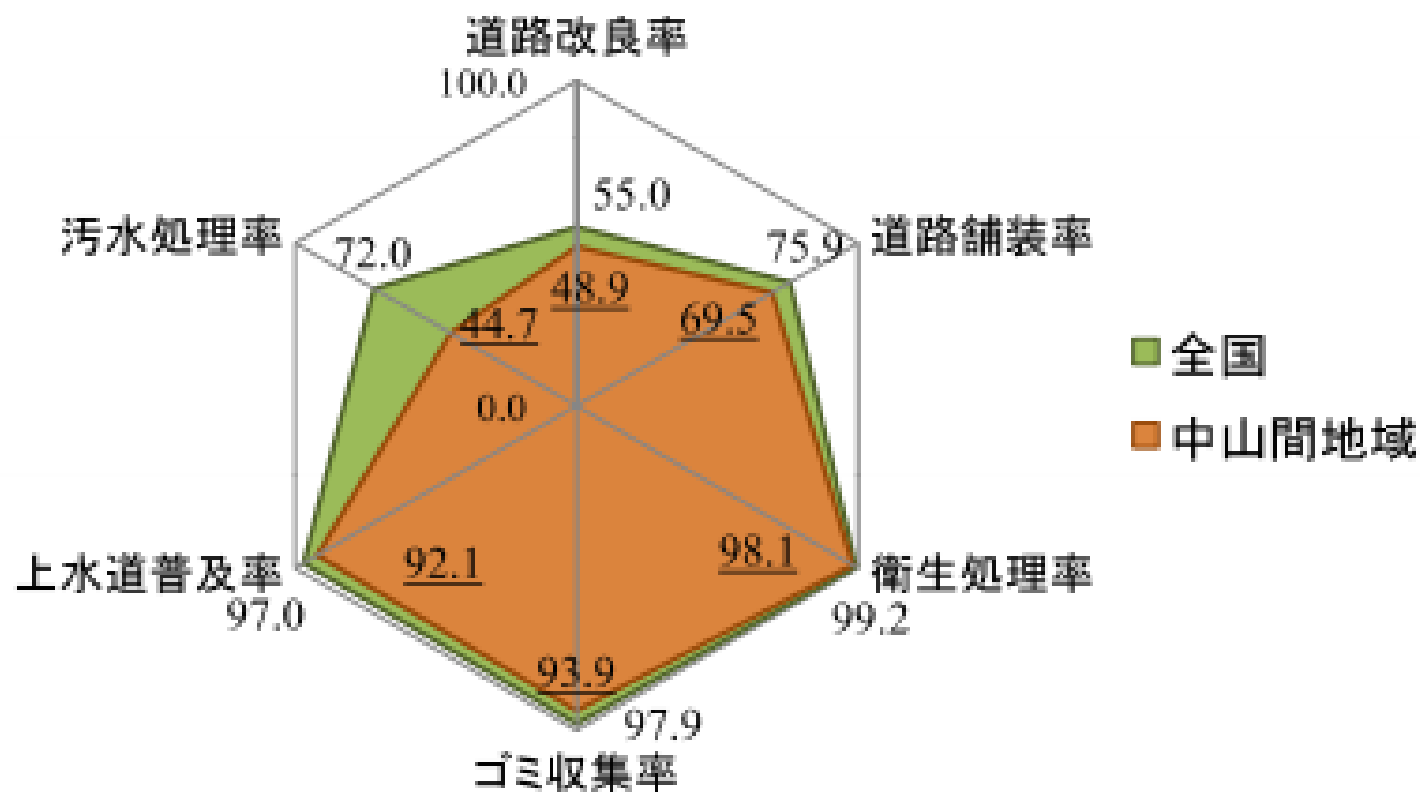


資料：農林水産省「農林業センサス」（農業従事者）、総務省「国勢調査」（総人口）

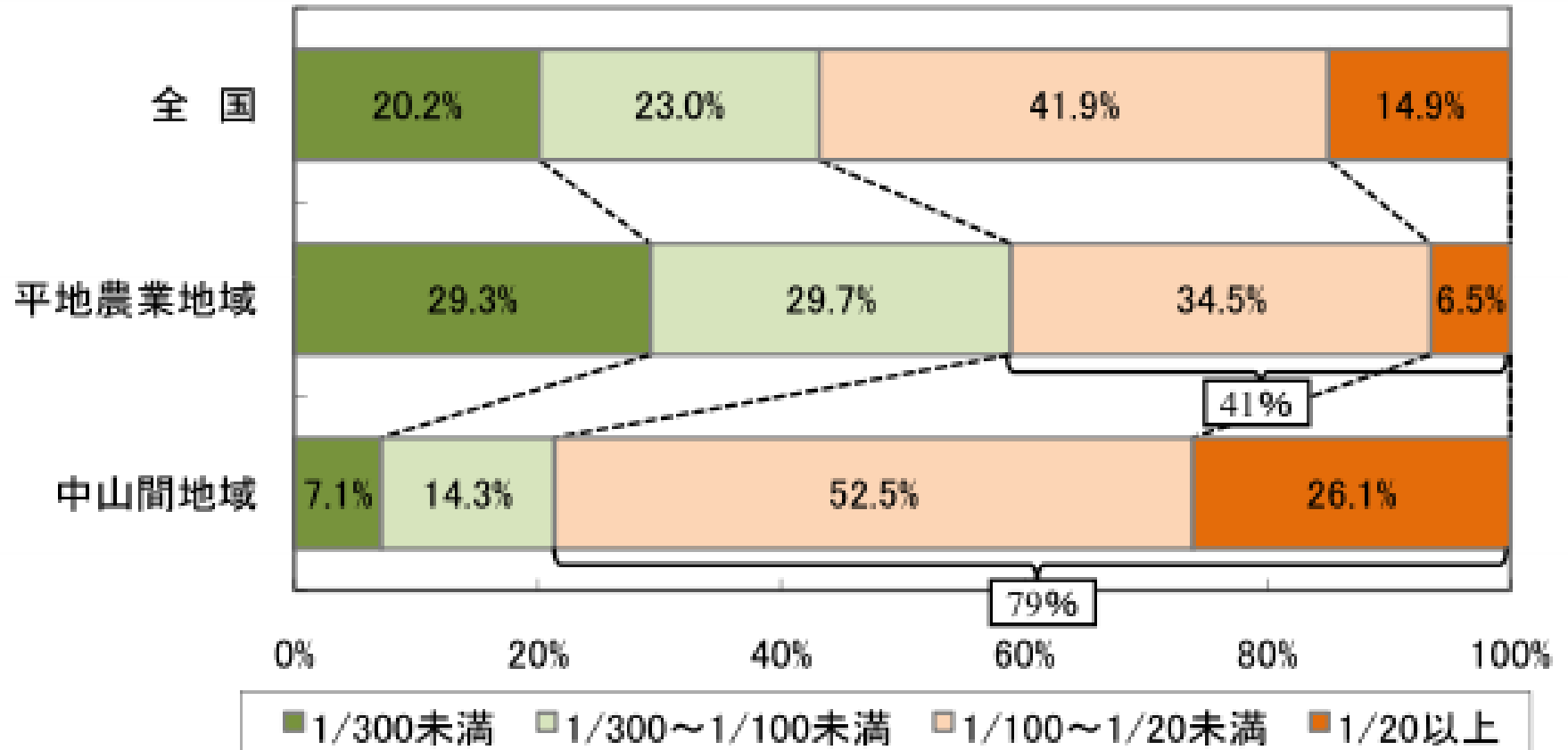
注：高齢化率は、65歳以上の割合

中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）

○ 生活環境施設の整備状況(平成17年)



○ 傾斜区分別の田面積割合

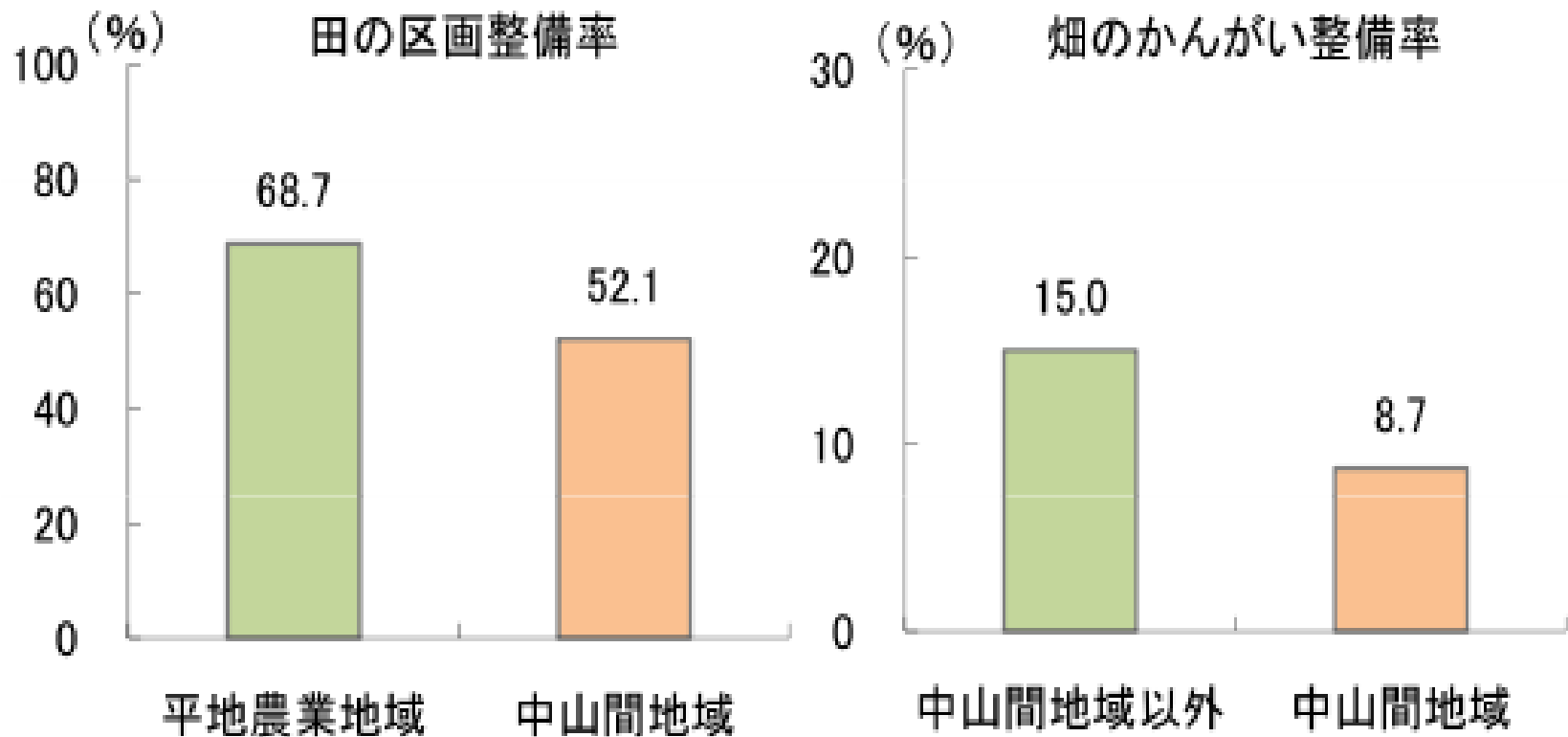


資料：農林水産省「第4次土地利用基盤整備基本調査（H13.3.31時点）」（組替集計）

中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）

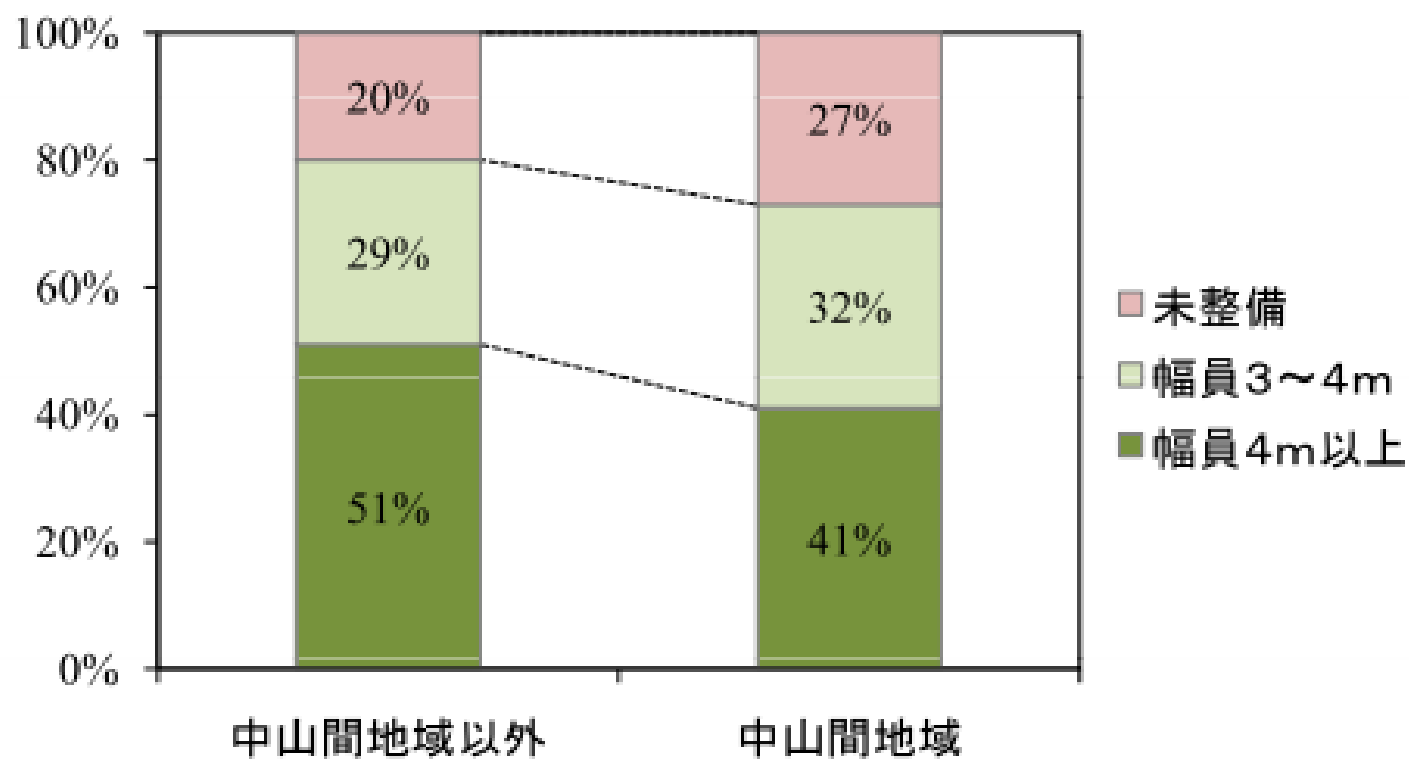
30a以上の区画の水田

○ 農業生産基盤整備率



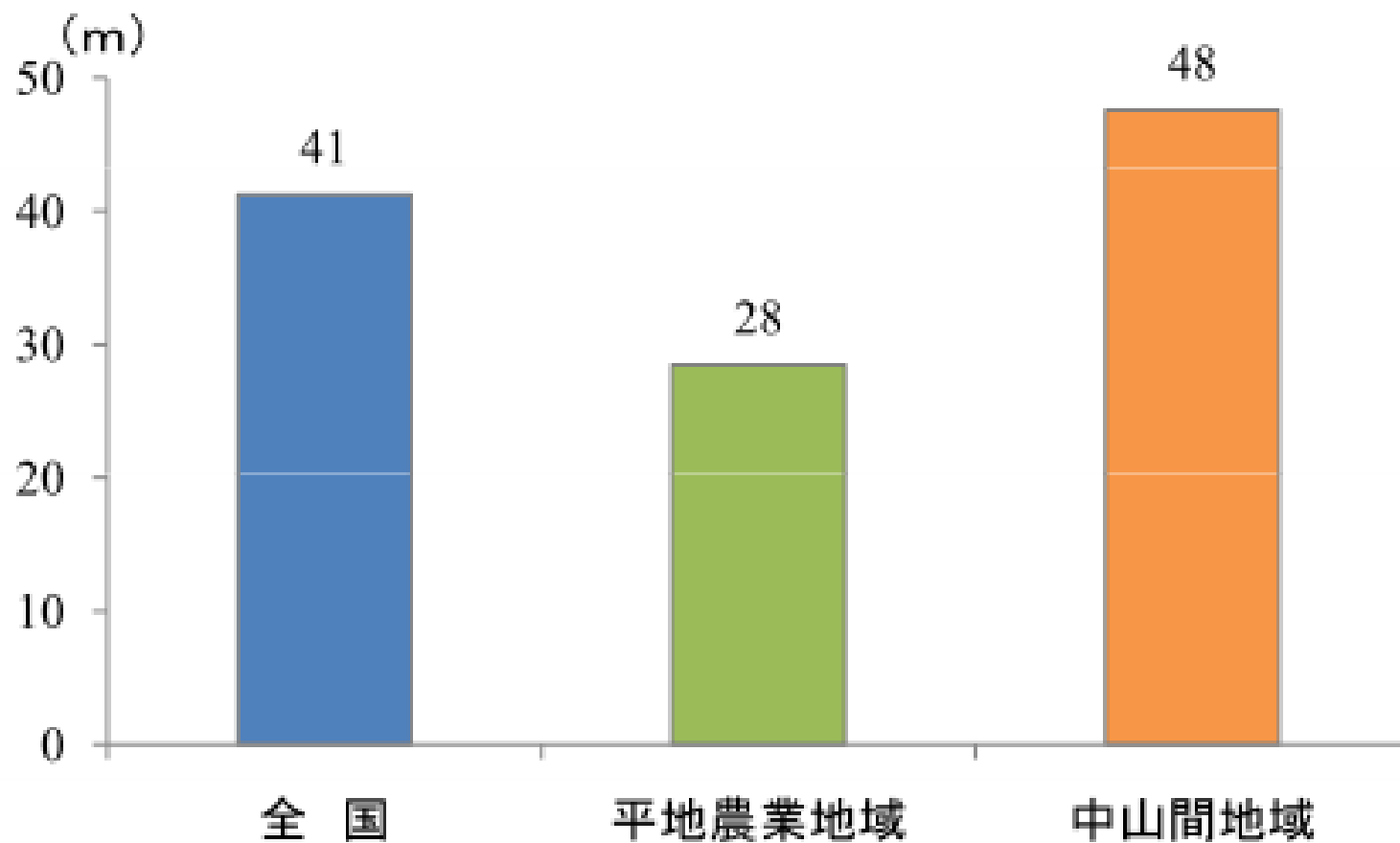
中山間地域農業をめぐる情勢: 農林水産省(H21)

○ 田の農道整備状況



中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）

○ 耕地面積 1 ha当たりの農道延長



中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省（H21）

山腹水路及び素堀トンネル

賦存量調査 位置図
長岡市（栃尾）1/2

S = 1 : 25, 000



長岡市栃尾の山腹水路

○山腹水路
○水路トンネル

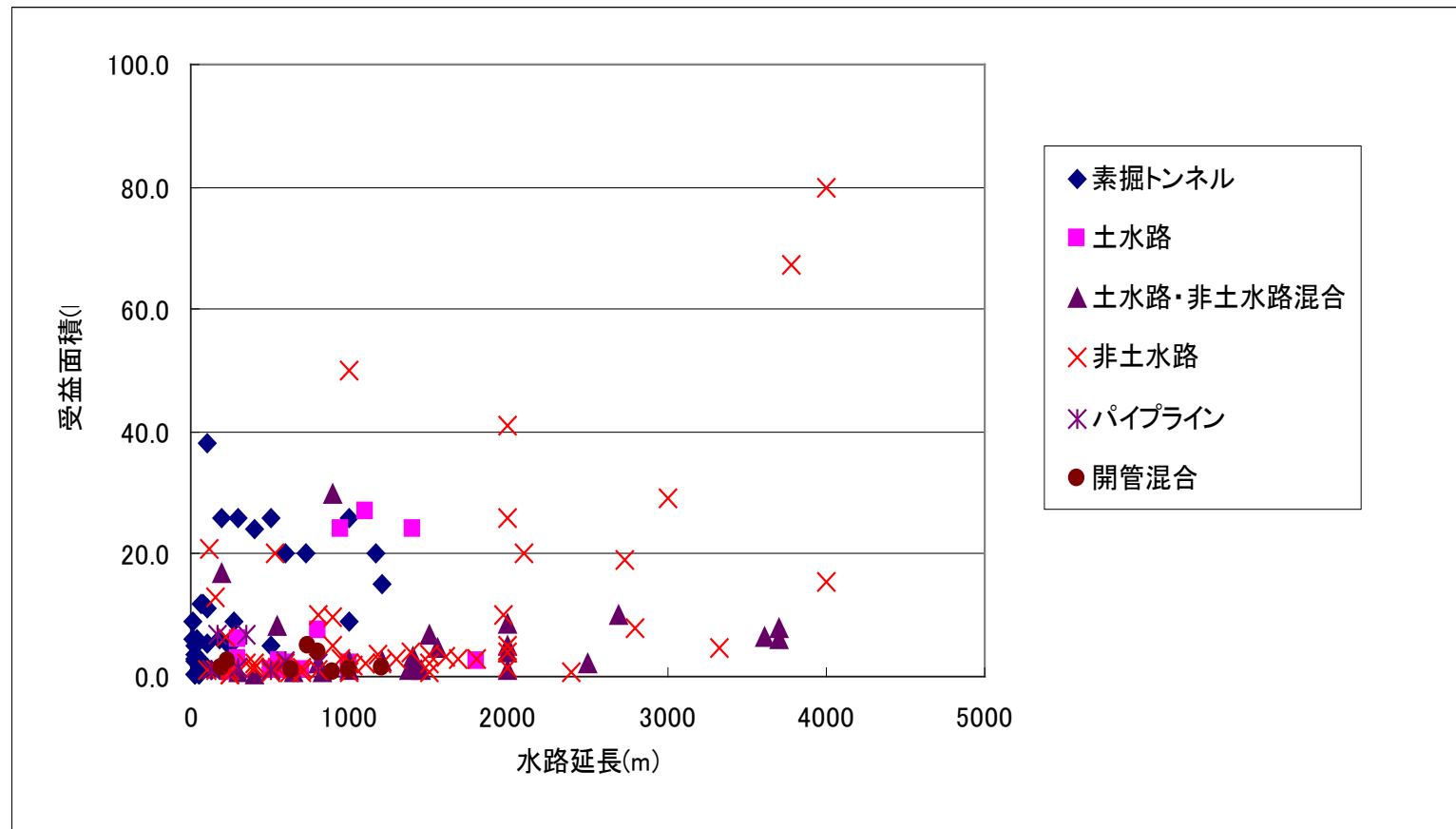
中越地震で被災した山腹水路



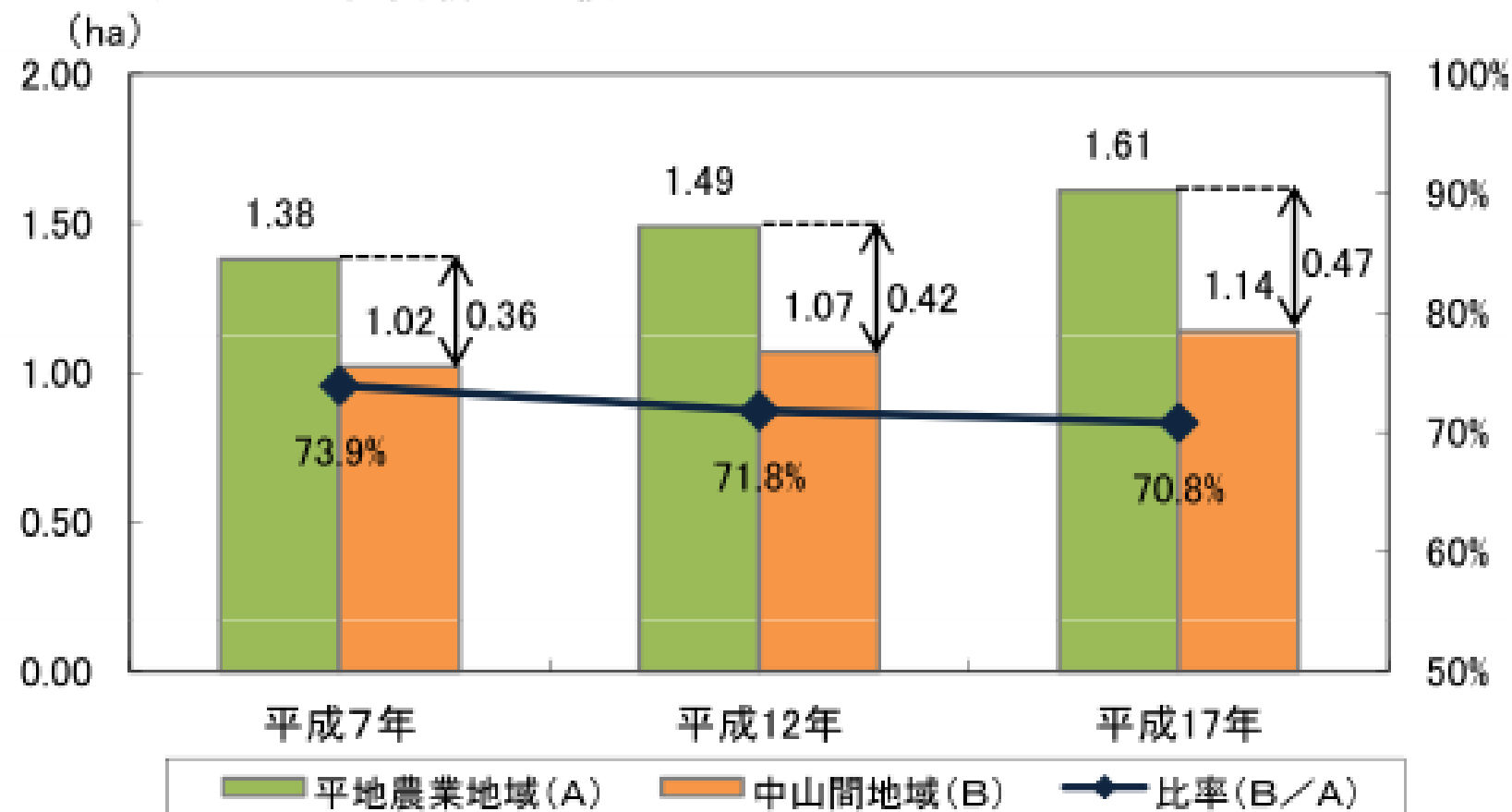
山間地 山腹水路の危機

- 災害に弱い 地震、水害、雪崩、地すべり
- 維持管理が困難に 過疎化、高齢化、耕作放棄の増加

受益面積の割りに距離が長い



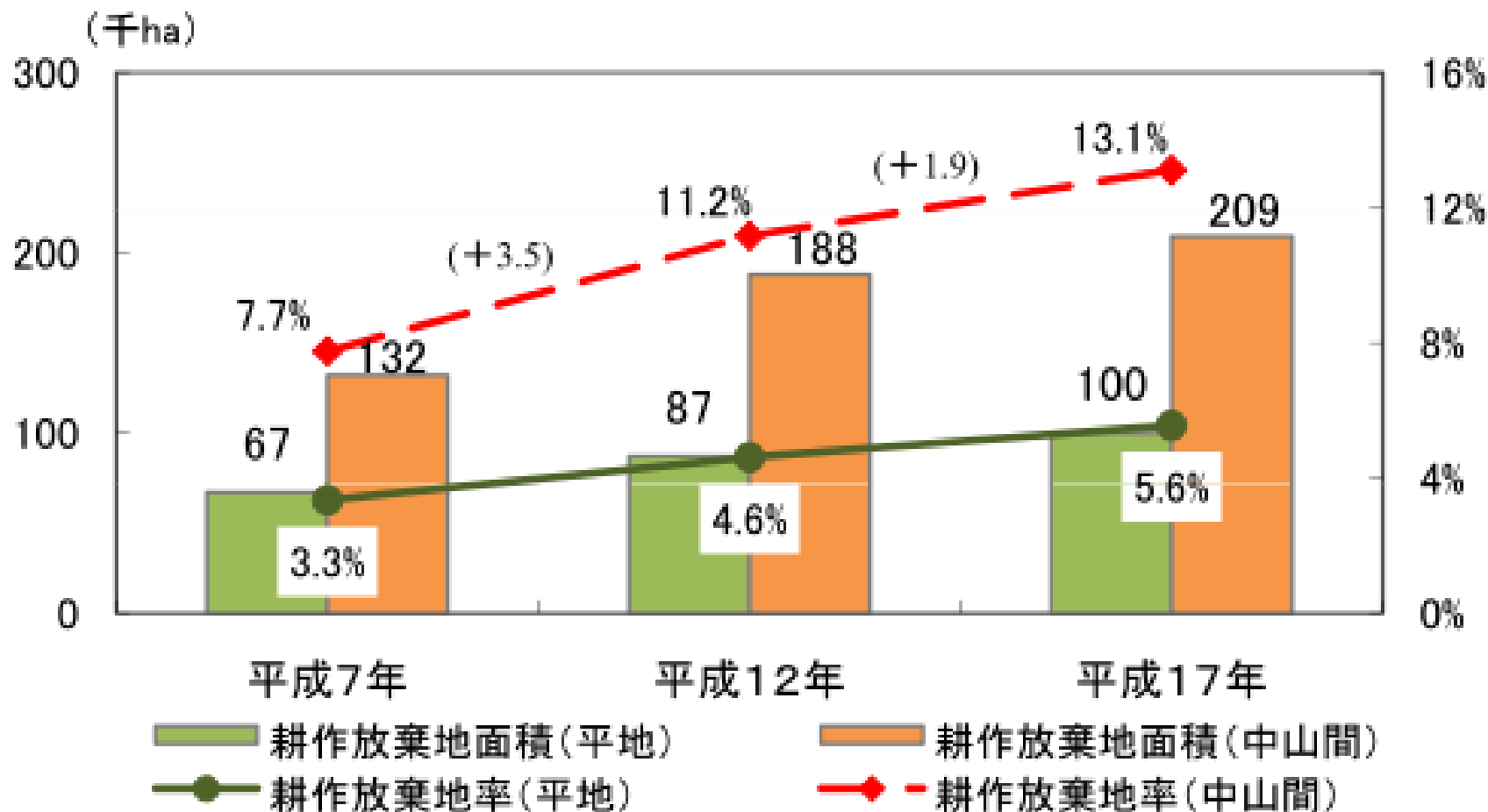
○ 1戸当たり経営耕地面積



資料：農林水産省「農林業センサス」（都府県・販売農家）

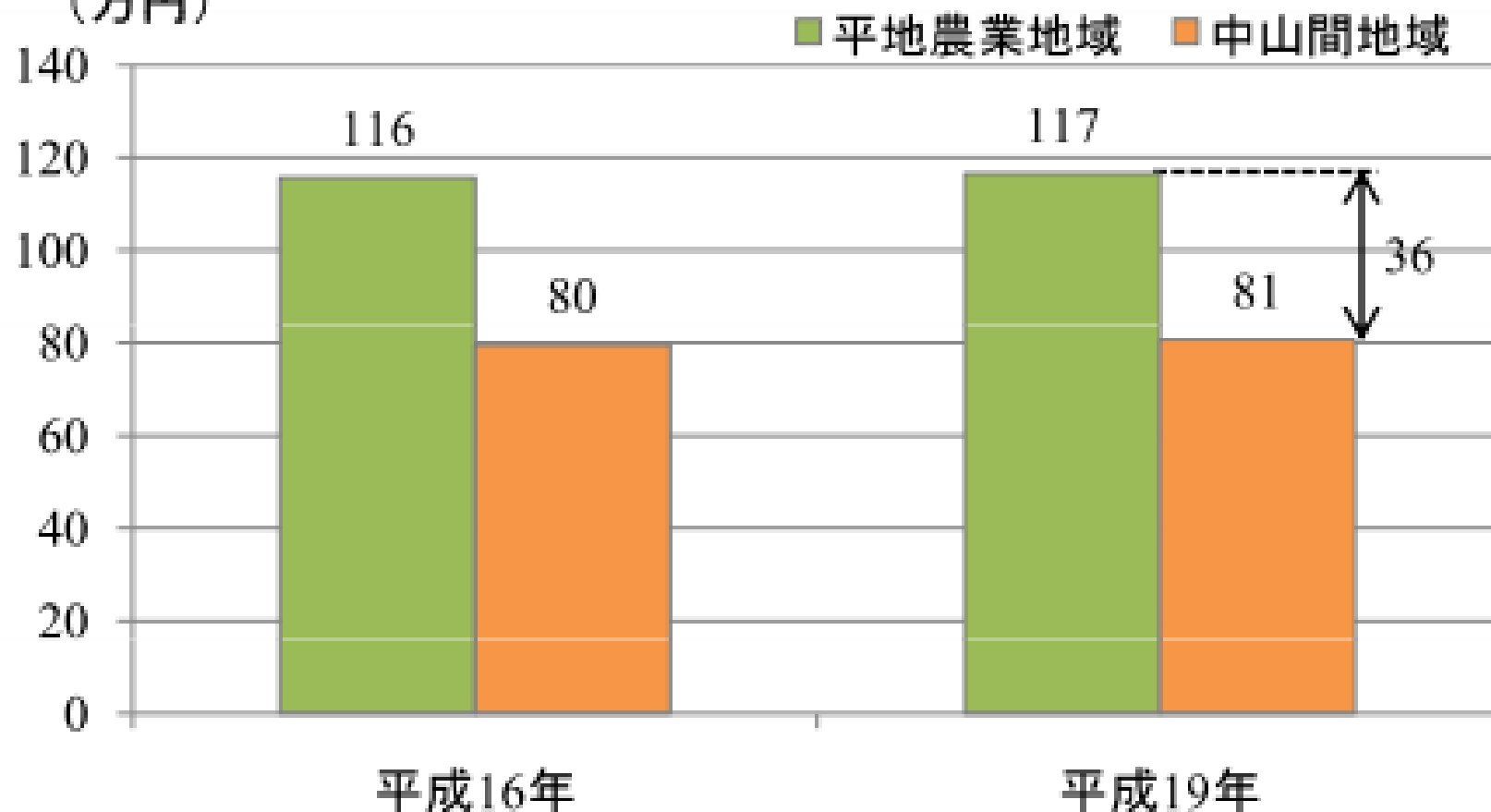
中山間地域農業をめぐる情勢：農林水産省(H21)

○ 耕作放棄地率の推移



○ 農業就業者 1 人当たりの農業所得

(万円)



中山間地域農業をめぐる情勢: 農林水産省 (H21)

中山間地農業の概況とその影響

- 過疎化・高齢化
- 不利な農地条件
 - 狭い団地・区画、急な傾斜
 - 道路・水路条件の悪さ
- 一戸当たりの農地面積の低さ



- 耕作放棄地の増加
- 低い一人当たり農業所得



- 食料自給率の低下
- 多面的効果の喪失

中山間地域の活性化政策

1. 関連振興法の動員

(1) 中山間地域対策5法

- 過疎法、山村振興法、特定農山村法、離島振興法、半島振興法
- 新潟はプラス特別豪雪措置法

(2) 施策の特徴

- 「地域格差の是正」が目的
- 「過疎法」にみられる全省庁的施策
財務省、総務省、農水省、文科省、環境省...
- ハードからソフトまで多様な事業の設定
 - ・葬式以外は何でも可能
 - ・「酒蔵」もOK

2. 施策にみる生産政策と環境政策の曖昧さ

(1) 米減反政策にみる一律配分

- 条件不利田から放棄へ
- 37年間で減反規模は100万ha超

(2) 「食料・農業・農村基本法」にはじめて明記・位置づけ

- 主要施策としての「中山間地域等直接支払制度」
しかし制度2期目には生産性向上対策の「くさび」

中山間地域等直接支払制度

I 期(H12～H16)

(1) 対象区域・農用地 中山間地に指定された地域の急傾斜、小区画などの農用地

(2) 御対象者 集落協定等に基づき、5年間以上継続して農業生産活動等を行う農業者等

(3) 対象行為

農業生産活動等	耕作放棄の防止等の活動、水路・農道等の管理活動
多面的機能を増進する活動	国土保全機能・保健休養機能を高める取組み、自然生態系の保全に資する取組み

(4) 交付単価〔1戸当たりの受給上限額は100万円(第3セクター・生産組織等には適用しない。)]

① 傾斜農用地等の交付単価(円/10a)

地 目	区 分	交付単価	地 目	区 分	交付単価
田	急 傾 斜	21,000	草 地	急 傾 斜	10,500
	緩 傾 斜	8,000		緩 傾 斜	3,000
	高齢化率・耕作放棄率			草地比率の高い草地	1,500
畑	急 傾 斜	11,500	深草放棄地	高齢化率・耕作放棄率	3,000
	緩 傾 斜	3,500		急 傾 斜	1,000
	高齢化率・耕作放棄率			緩 傾 斜	300

② 規模拡大加算の交付単価(円/10a)

認定農業者等及び新規就農者が、平成12年度以降、新たに利用権の設定等・農作業受委託契約の締結を行った対象農用地について、5年以上の期間継続して農業生産活動等を行う場合に交付

地目	交付単価
田	1,500
畑・草地	500

中山間地域等直接支払制度とは？

中山間地域等直接支払制度とは、中山間地域などの農業生産条件が不利な地域において、5年以上農業を続けることを約束した農業者の方々に対して、交付金を交付する制度です。

中山間地域



- ・ 傾斜がきつくて農地を広くできない。
- ・ 大きな機械で作業できない。
- ・ 法面が広くて草刈りが大変。
- ・・・など。

本制度が対象として
想定している地域



平地農業地域



市街地



中山間地域等直接支払制度の モデルはヨーロッパ

条件不利地域や農業の環境保全機能への支払いシステムがデカップリング政策として採用されている。

デカップリング政策とは、補助金には生産刺激効果と所得補償効果があり。これを切り離す政策

ヨーロッパでは景観の維持や国境の管理等の効果
を果たしている
として条件不利地に所得補償が行われている。



美しいスイス の景観

かなり厳しい所も
牧場に



今までの要件に加えて、次の①～③を選択できるようになりました。

①協定農用地の拡大

- ◆これまで本制度を実施してきた集落
→ これまで協定に含まれていなかった対象農用地を新たに取り込み、協定農用地を拡大すること。

<見直しのポイント③>

小規模・高齢化集落支援加算の新設

近隣集落が、小規模・高齢化集落の対象農用地を含めて協定を締結した場合、交付金の加算措置が受けられます。

集落協定へ取り込み

応援



【小規模・高齢化集落】



取り込んだ小規模・高齢化集落
の農用地面積に応じて加算



【近隣集落】

(廃止→「保健休養機能を活かした都市住民等との交流」「自然生態系の保全に関する学校教育等との連携」「多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携」)

「(AさんやBさんが病気などの理由で農業が続けられなくなった場合は) CさんやDさんが引き受ける。」

協定への位置付け方(例)



【直接支払制度による耕作放棄防止・多面的機能増進の主な取組状況】

区分	取組内容	協定数	割合
耕作放棄の 防止活動	農地の法面管理	790	79%
	賃借権設定・農作業委託	595	60%
	簡易な基盤整備	194	19%
	既耕作放棄地の保全管理	70	7%
	自然災害を受けている農用地の復旧	68	7%
多面的機能 を増進する 活動	周辺林地の下草刈り	600	60%
	景観作物の作付け	437	44%
	魚類・鳥類の保護	86	9%
	鳥類の餌場の確保	71	7%
	体験民宿（グリーン・ツーリズム）	54	5%

資料：地域農政推進課「平成20年度中山間地域等直接支払制度実施状況」

【直接支払制度を活用した体制整備等の取組状況】

体制整備等の選択要件	集落協定数	割合
機械・農作業の共同化	424	63%
高付加価値型農業の実践	55	8%
地場産農産物の加工・販売	43	6%
認定農業者の育成	263	39%
多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携	372	56%
計	668	100%

資料：地域農政推進課調査(H21.12現在)

注1：すべての集落協定で選択要件を達成の見込み

注2：割合は体制整備等に取り組む668協定に対する割合

(1) 成果

- 平成21年8月に実施した中山間地域等直接支払制度2期対策の最終評価では、制度市町村の約7割が「おおいに評価できる」、約3割が「概ね評価できる」と回答し、

集落営農の取り組み事例

(1) 長岡市小国
森光集落

(2) 見附市 小栗山

集落営農とは

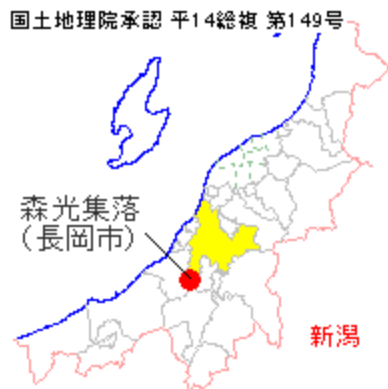
集落単位で農家が各自の農地を持ち寄り、共同で農機具を所有したり、農作業を行ったりする組織。任意の組織のほか、経営を法人に移行する「農事組合法人」、完全に営利目的の「株式会社」などの形態がある。

農業機械共同利用組合

農事組合法人

株式会社





森光集落

人口	209人 (子供 高齢化率)
世帯数	総世帯数 62戸 販売農家戸数 18戸 (専業 : 3戸、1兼 : 1戸、2兼 : 14戸)
農用地の状況	田 33.2ha、畑 0.5ha
主要作目	水稻 33.6ha (64百万円)

- ・少子高齢化 過疎化 小規模経営 不整形 積雪 耕作放棄
- ・集落活動計画 集落と農業が一体 生産組合 生産と販売 専従雇用
- ・水稻 生産力 高付加価値 直接販売 農産加工 グリーンツーリズム
- ・新潟大学との連携 (H19)豊かなむらづくり 農林水産大臣賞

森光担い手生産組合 <http://www.morihikari.net/kumiai.html>

北陸農政局 <http://www.maff.go.jp/hokuriku/news/plan/mura/>

0.はじめに

新潟大農学部もりひかりプロジェクト

- ★**連携相手**: 小国町森光集落、塩川酒造(新潟市)
- ★**事業内容**: 森光集落の棚田で育てた酒米「一本ノ」を使ったオリジナル清酒「もりひかり」(集落名「森光」をもじった)の製造
- ★**規模**: 水田10a・清酒600本(720ml) → 35a・2400本(同)
- ★**開始年**: 2003年
- ★**事業目的**: 森光集落で行っている都市農村交流事業(グリーンツーリズム)支援
交流のツール・付加価値化のアイテム
- ★**コンセプト**: 交流顧客(都市住民)と集落農家と一緒に
自分たちが(交流会等で)飲む酒を自分たちで造る
⇒参加・一貫性が重要＝付加価値とともに制約要因
- ★**その他**: 大学と地域の交流の深化により研究の質を上げる
地域に根ざした問題意識・研究内容
小規模酒造業者の生き残り戦略モデル

森光担い手生産組合イベント情報

- | | | |
|---|------------------|-------------------------|
| ① | 山菜取りツアー | 日時 4月29日(月)
AM10:00～ |
| ② | 田植えツアー | 日時 5月12日(日)
AM10:00～ |
| ③ | チマキ作り&蛍鑑賞
ツアー | 日時 6月29日(土)
AM10:00～ |
| ④ | 稲刈りツアー | 日時 9月8日(日)
AM10:00～ |
| ⑤ | どんどん焼き | 日時 1月12日(日)
AM11:00～ |

森光集落

「森光酒米研究会」

オリジナル清酒を造る

- 地域振興
- 新潟ならではの酒造業の
新たな展開を模索
- 学生の教育

塩川酒造

新潟大学



取り組みの背景

- ・中山間地域の過疎・高齢化・棚田保全
- ・「農村の魅力をまるごと商品化する」
- ・集落－農場体制、棚田米「もりひかり」販売、農村体験ツアー－企画、農産加工販売に繋げたい

⇒大学の知恵を借りたい・大学も一緒に考える

農学部と森光の最初のつながりは、町の勉強会
グリーンツーリズム立ち上げに向けての支援

－農学部FC企画交流部の発足時期

後に町との相互交流協定に発展

⇒多くの農学部スタッフが森光に
一連の流れの延長



大学農学部と小国町との
交流に関する基本協定調印式
鈴木農学部長と町長



相沢健二氏の記念講演

地域活性化の必要性が叫ばれ、産・学・官の多角的な連携が大切といわれています。町と新潟大学農学部は、「はつらつ新世紀塾」、「森光集落との支援研究交流」と交流が続いてきました。このような背景から、新潟大学農学部と「交流協定」を結び相互に交流・連携を深め、地域の活性化に活用するために、相互交流に関する基本協定を12月14日に締結しました。当日は、調印式の後、「はつらつ新世紀塾」等で町と関わりの深い農政ジャーナリスト相沢健二氏の記念講演および祝賀会が行われました。

新潟大学農学部と
相互交流に関する
基本協定を調印

大学スタッフの役割

- パイプ役およびコーディネート役
- 専門知識を活かす？
- 春の田植から秋の収穫、冬の酒づくりまで各過程に関わり助言・作業手伝・意見調整

求められるのは専門技術の提供より調整力

作付け計画(品種・肥料設計・肥培管理)

田植え・稲刈りツアーの企画アドバイス・学生動員

清酒製造仕様の企画

ラベル作成

- 交流顧客としての役割

田植え・稲刈りツアーへの参加

酒造り作業への参加・手伝い

できた酒を飲む(これが一番大事)需給調整弁



田植え風景



稲刈り風景



天日干し



収穫後交流会





酒造り





現在の取り組み

販売アイテムの拡大



集落のお母ちゃんによる「漬物」の製品化



100%森光産の原料で⇒製品差別化

- ・ 丹精をこめた野菜・山菜 農薬等なるべく使わない
- ・ 清酒「もりひかり」の酒粕で、塩麴で、「紫宝」による玄米麴？)
- ・ お母ちゃん(漬物名人)たちによる伝統の味付け



お弁当部門への発展・山小屋の完成



集落を超えて —(株)もったいない村—

もったいない村は、農産物の直売や移動販売などを通じて、地域の農家や高齢者の生活支援を行っています。

山の駅もったいない村は、その拠点です。

地場の野菜手工芸品や、他地域の農家から直送されてくる果物、一般食料品、雑貨などを販売しています。



- ◇工場跡に農産物直売所と葬儀場
- ◇高齢化集落で「御用聞き・宅配」
- ◇生活必需品「弁当」他
- ◇買い物難民対策
- ◇ソーシャル・ビジネス



上流に人家・工場の無い沢の水 農林水産大臣賞 受賞の村づくり 森光 もりみつ	「名水の里横沢」の棚田の米 横沢産い手生産組合 桐沢 きりさわ
有機肥料を使って棚田で栽培 双鳥さんの米 小栗山 こぐりやま	長崎うまい米コンテストで金賞 新潟県産特別栽培米 横沢 よこさわ

森光集落は確かに「優秀」

(H19) 豊かなむらづくり 農林水産大臣賞

・・・でも

どこでもできるか？

優秀とはいっても課題は山積み

止まらない過疎・高齢化

米価低迷・安値志向、棚田の経済不利性



中山間地共通の悩み・「構造的問題」

- ・ どうすればよいか
- ・ 欠かせない都市からの応援・政策支援

見附市小栗山町の事例

戸数 50戸

販売農家数 29戸

水田面積 54ha

平成10年圃場整備完成

平成11年 機械利用組合4組織

平成18年 農事組合法人1組織

平成21年 アスパラガス栽培

参加農家数

作業に参加農家17戸

土地だけ参加 3戸

経営面積 32ha

水田 28.5ha

大豆 3.1ha

アスパラガス 40a

専従理事(45才) H25より

農地水環境保全向上対策の取り組み

小栗山木タルを守る会

**H22年 新潟県の奨励賞を受賞
集落ぐるみの活発な取組
が評価された。**

小栗山でホタルを守る会を立ち上げた理由

平成16年7月13日の新潟福島豪雨災害
によって

- 二つの堤（ため池）が大きい被害
公的な復旧は不可能
- 小栗山に生息していたゲンジボタルが
壊滅状況



H16.7.13水害時の小栗山



水害時の南谷つつみ（右）
とつつみ上流と流れ（上）



南谷つつみ 流木と流入土砂で姿を一変

撮影 三沢清志

7月13日はホタルにとって どんな時期か？

- 産卵が終わって卵の状態、川辺の水苔、水草に産卵
- 水害で根こそぎ流された。

平成17年のゲンジホタルは激減
特にこれまで沢山見られた石原堤上は
壊滅状態

平成19年に始まった 農地水環境保全向上対策事業に応募

目的

- 南谷つつみの自力復旧
- ゲンジボタルの再生
- ホタルをシンボルにした環境保全型農業の展開
- 集落各団体連携による安全で美しいむらづくり

ホタル再生事業の成果

- 年々、数を増加させている。
- 特にH21年 は、見に来た人が驚くほど、
- 数百のホタル合戦が見られた。
- 水害前の状態に戻ったと思われる。
- 県内各地のホタル名所に劣らないのではないか。
- 現在毎年、カウンターで数を数えている

小栗山集落営農の課題

- 専従の給料を確保できるか？
- アスパラガスの黒字転換
- 組合員の高齢化、作業班の減少
- 煩雑な会計処理
- 計画的な機械の更新

集落営農の条件

- 強力なリーダーが必要

森光 小島康市さん

大学に直接来て、活性化方策を相談

小栗山 斎藤雅昭さん

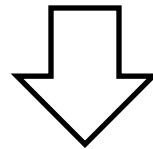
ファーム小栗山発足の功労者

7年間 組合長

（中山間地域）農村の可能性とその磨き方

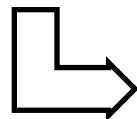
中山間地農業＝条件不利地農業・農村？

- 国へのアピールは大事
- 元気な高齢者、自給的小規模農業、共同体、高齢でも暮らせる
- 都市の貧困、断絶、生きづらさ、若者の疲弊
- 山の幸、伝統行事・文化、生活の場としての農山村の魅力



都市が農村に学ぶ時代

- 必ずしも「不利」ではないし、「元気」「健全」な側面
- ただし、過疎・高齢化進展、地域経済の停滞、雇用の場縮小は事実
- 「市場遠隔地」「コメ単作」「単調な交流」＝新潟特有の課題・特徴
 - 東日本大震災の影響・・・東北を目指す？西日本に逃げる？
- いずれにせよ、地域の特徴を生かした（実情に合わせた）展開が必要



「地域の宝」「ここだからこそ」を磨く必要

最後に

- 中山間集落では、過疎化、高齢化が進行し、様々な支援策が出ていたり、活性化策が提案されていても、対応力が減少しているため、実施が難しくなっている。



集落支援員の役割は重要